

須藤南翠 すどう なんすい 小説家。安政五年十一月二日伊豫國生れ、大正九年

二月四日歿（八六一九二）。本名光暉、幼名孟。別號乳臭生、南翠外

史、南翠生、古愚翁主人、古春樓、土屋南翠、土屋郁、土屋郁之介、

玖珂山人、彩幻道人、楊外堂主人、楊苑、楊苑散人、江戶南翠、香沁

園のあるし、香沁園主人等。松山師範學校卒。明治十一年二月有喜世新

聞、次ついでに『開化新聞』（のち『改進黨新聞』と改題）に入り續き物を

發表して文名を揚げる。二十五年『大阪朝日新聞』入社。おのち池田

芳等と浪華文學會を興した。二十八在歸京。その後は金尾文淵堂依頼

の『教祖傳記叢書』執筆を専らとした。幸田露伴は、饗庭篁村とその

名を並び、明治二十年前後の『文星』と曰ふ。長男の建築家須藤眞金

の『南翠傳』（大正十五年二月四日自刊）がある。

著書 『從一位大勳位 從一位大勳位 岩倉具視公誠忠義傳』（土屋郁之介名、訂正、史定四郎編、

明治十六年七月二十九日講陽堂）、『春色日本魂やまと』（楊外堂主人名、

明治十九年四月金盛堂）、『一擧新粧之佳人しんぞう』（南翠外史名、明治一

十年五月十五日古春樓藏版）、『正文堂』古春樓叢書。再刊、二十一年

六月十日春陽堂共刊、正文堂）、『離黃鸝』（同、明治二十一年一月

二十五日正文堂）、『社會現象しんがうの繪』（彩幻道人名、明治二十一年五

月十一日自刊、正文堂）、『概世照自葵がいせ』（明治二十一年七月九日春

陽堂『古春樓叢書』）、『唐松操』

（南翠外史名、明治二十二年八月一

十五日自刊、文

昌堂）、『隱君

子・上巻』（同、



明治二十一年七月へ八月二日出版朱印「春陽堂」(「浮城松葉」)、  
 「得路難・上巻」(同、明治二十二年四月)、  
 「九百春陽堂」(「浮城松葉」)、  
 「國民小説」(同、合著、明治二十二年十月)、  
 「二百國民友社」、  
 「臥待月」(明治二十四年四月)、  
 「二百春陽堂」(「聚芳十種」)、  
 「試金石」(須藤南翠外史名、明治二十六年二月十日金櫻堂)、  
 「江戸小町」(同、明治二十六年二月)由村富次郎編輯、  
 金櫻堂發行)、  
 「江戸男一足」(明治二十二年四月)  
 自博文館「袖珍小説」、  
 「青才六札」(合著、明治二十四年一月)、  
 「二百春陽堂」、  
 「間一髪」(明治二十八年十月一日金尾文淵堂)、  
 「ゆゑのこゝろ」(合著、明治二十八年九月一日前川又三郎・阪杉本要刊、  
 梁江堂)、  
 「愚禿親鸞」(本名、明治四十一年十一月)  
 二百春陽堂・阪杉本梁江堂「教祖傳記叢書」)、  
 「法然上人」(同、明治四十四年一月)、  
 「二百春陽堂」(「教祖傳記叢書」)、  
 「明治天皇御傳」(同、大正元年九月一日金尾文淵堂)、  
 「石山合戦」(同、大正二年六月十八日新潮社)、  
 「親鸞聖人」(同、大正二年八月八日金尾文淵堂。再刊、  
 昭和九年二月二十日泰光堂書店)、  
 松本幹一著「ことばずかた」(校訂、  
 大正六年五月十八日泰山房)、  
 「一響」(須藤眞一著、  
 「笑新粧之佳人」(木村久雄校訂、  
 大正十五年十一月十日東京堂「明治文學名著全集」)、  
 「空母」(本名、  
 昭和八年四月八日金尾種次郎編輯、  
 湯川松次郎編輯、  
 大阪・盛文館賣棚「教祖傳記叢書」)等。

